

乳がん検診・子宮頸がん検診で早期発見を

女性特有の乳がん・子宮頸がんは、20～40歳代の比較的若い世代でも発症しています。早期に発見することで治る可能性が高いので、定期的に検診を受けましょう。9月4日（水）から受付を開始します。電話でお申し込みください。

■集団乳がん検診

日程／12月2日（月）、13日（金）

場所／健康福祉会館

対象／40歳以上（昭和49年4月1日以前生まれ）の女性市民で、昨年度受けていない方

料金／40歳代3,000円、50歳以上2,800円

定員／各日30人

■集団子宮頸がん検診

日程／12月6日（金）※託児あり（要予約）

場所／健康福祉会館

対象／20歳以上（平成6年4月1日以前生まれ）の女性市民

料金／1,700円

定員／120人

個別子宮頸がん検診の実施医療機関を追加

医療機関名	住所	検診期間	検診料金
松岡産婦人科クリニック ☎②0032	神崎郡福崎町西田原 1149-1	平成26年2月まで	2,000円

他の医療機関等、詳細については市ホームページまたは4月に配布した「健診のお知らせ」をご覧ください。

「結核予防週間」9月24日から30日まで

結核は、日本最大の感染症で、1日に約62人が結核を発病しています。結核の感染を防ぎましょう。

■予防法

- ・食事、運動、休養など健康管理に気をつけて、病原体への抵抗力を高める。
- ・1歳までにBCG接種を受ける。
- ・咳や痰、微熱などのような症状が2週間以上続くときは早めに医療機関を受診する。
- ・年に1回胸部検診を受ける。町ぐるみ健診（20歳以上）、医療機関健診（40歳以上）で胸部検診が受けられます。



健康づくりに関する知識を深める「健康達人講座」参加者募集

加西市医師会医師から、毎日元気で楽しい生活を送るため、病気の理解とその予防について学びましょう。希望者は保健師・看護師に健康づくりに関する個別相談ができます。

■月日・内容／希望する講座のみの参加も可能

月 日	内 容
10月17日（木）	「乳がんとその予防～ピンクリボン運動で存じですか～」、「保健師による乳がん自己触診実践講座」
11月14日（木）	「心の病気と予防について」、「運動指導ミニ実践講座」
11月15日（金）	「肝臓の働きと病気～肝炎の現状と治療について～」、「兵庫県より肝炎に関する県の現状」
12月5日（木）	「ロコモティブシンドロームと運動」、「運動指導ミニ実践講座」

■時間／13:30～15:00 ※受付は15分前から

■対象／加西市民。50人（先着順）。参加費無料

■場所／健康福祉会館※11/15のみ中央公民館視聴覚室

■申込方法／健康課へ直接または電話で申し込みください

健康診断結果の見方をわかりやすく説明します「健診結果説明会」

健診を受けたけれど「結果の見方がわからない」「どんな生活改善をすればよいのだろうか？」と、不安になることはありませんか。健診結果説明会では、医師による健診結果の見方の講義や保健師等による個別相談を行います。

日 時／9月19日（木）13:30～15:00

場 所／健康福祉会館 研修室1・2

持 ち 物／健診結果票、筆記用具、ノート

申込方法／健康課へ電話で申し込みください

【申込・問合せ先】健康課（健康係）☎④8723 FAX④7521 kenko@city.kasai.lg.jp

加西病院のコーナー

加西病院ホームページ <http://www.hospital.kasai.hyogo.jp>

社会保障制度改革国民会議の報告を受けて

■社会保障制度改革国民会議

高齢化社会への対応を主とする社会保障の今後の方向性への提言が、8月に安倍首相へ渡されました。内容は医療、年金、介護、少子化対策となっていますが、医療制度改革に関する提言が中心で、秋の国会で詳細が決定される予定です。

■医療制度改革の概要

国民生活に影響するのは、病院や診療所での窓口負担の増加です。一方、今後の市民生活に影響するのが、地域に点在する急性期病院の機能再編です。政府が急性期病院を機能再編したい背景は、次のようなことが考えられます。

- ①現在8千施設余りある病院の多くが「治す医療」を目的とする急性期医療に偏っているため、人員や設備にお金のかかる体制になっている。
- ②急性期中心の病院体制では、政府が高齢者医療として掲げる「治し支える医療」に比べて費用が高くなる。
- ③急性期病床数に比べて亜急性期や回復期の病床数が少なく、病気が治っても自宅に帰れない患者の行き場が無い。

■地域医療の今後

上記の課題に対して政府は、次のような方針をとっています。

- ①病院を「高度急性期」、「一般急性期」、「亜急性期・回復期」に機能再編し、多くを「亜急性期・回復期」に移行させる。
- ②消費増税を原資として機能再編に応じる病院には資金を交付し、資金交付の実施主体は都道府県が担う。
- ③急性期病院への入院には関門（ゲートキーパー）となり得る地域かかりつけ医療制度を作る。

特に②については、病院機能再編を確実に誘導するため、国民健康保険の運営主体を現在の市町村から県に移管し、県単位で医療に掛かる費用を削減しないと、県財政が赤字負担を背負う仕組みにして再編の実効性を担保しようとしています。

■加西病院に当てはめてみると

加西市の人口や近隣の病院再編からみると、加西病院は「高度急性期」か「一般急性期」か、あるいは「亜急性期・回復期」と「一般急性期」を混合した「地域に密着した病床」という位置づけと考えられます。しかし、「一般急性期」以上でなければ、現在提供している救急医療や高度医療を実施する人員の体制は困難です。

市民が安心して生活していくには、加西病院の救急医療や大規模病院に匹敵する手術や治療の数々は貴重です。市民が病院を適正に利用し、本院が他の急性期病院に負けない医療体制を築けるよう医療面でも経済面でも協力をいただくことが、国の制度改革に埋没して病院機能を低下させない唯一の方法です。

■地域医療フォーラム

昨年まで病院が行ってきた「加西病院市民フォーラム」を「地域医療フォーラム」として、市と加西市医師会の協力で10月3日に健康福祉会館で開催します。加西市の地域医療は、市民の力で守っていかねばなりません。フォーラムに参加して、地域医療と病院の現状、ならびに他市町の住民がどのようにして地域医療を守っているのかを知りましょう。



（病院事業管理者・院長 山邊裕）

地域医療市民フォーラム

地域医療を取り巻く環境は、厳しさを増し、多くの課題が山積しています。病院や診療所の現状を知り、私達を守る地域医療をいっしょに考えてみませんか。

日時／10月3日（木）14:00～16:00 場所／健康福祉会館大ホール

内容

1部／講演「子どもを守るために 今 母親の私達ができることは」

富永なおみ（西脇小児医療を守る会代表）

2部／パネルディスカッション「地域医療を考える」 司会 安積啓（加西市医師会理事）

パネリスト 山邊裕（加西病院院長） 大杉幸男（加西市医師会会長） 酒井圭子（加西市医師会理事） 他

定員／400人※申込不要 参加費／無料 問合せ先／福祉企画課☎④8724



昨年開催した「加西病院市民フォーラム」